水産資源回復のための人工礁に関するワークショップ

水産業システム研究センター

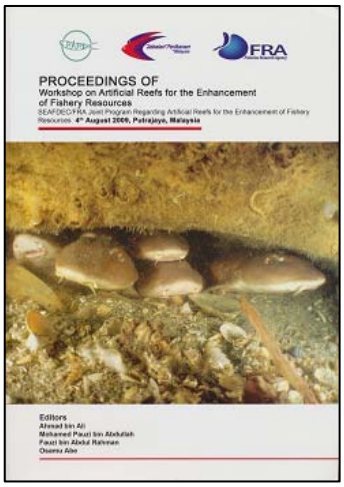
研究の背景・目的

水産総合研究センター（FRA）は、ASEAN（東南アジア諸国連合）10 カ国と日本の協力によって 1967 年に設立された SEAFDEC（東南アジア漁業開発センター）と科学技術協力に関する覚え書きを 2004 年に締結し、同協力に係る活動を進めてきた。2009 年には新たな研究協力の設定に向けて協議が行われ、その結果、重点課題のひとつとして人工礁（ARs: Artificial Reefs）に関する取り組みが実施されることとなった。人工礁は水産資源の蝟集（いしゅう）や増殖、保護を目的として水域に設置される構造物を指し、わが国では人工魚礁（単に魚礁とも言う）や藻礁、増殖礁、保護礁などと称される漁場施設が該当する。近年は ASEAN の国々においても漁業振興や水産資源の回復を目的に、人工礁が数多く設置されるようになった。零細な漁業者に対して人工礁は、補助漁具として蝟集効果を果たすことにより漁獲効率の向上を図る手段であるとともに、他方では漁場の保全や再生に向けて、水産資源の増殖や保護を積極的に推進する手段としても位置付けられている。わが国独自の技術として発展を遂げてきた漁場整備技術が、ASEAN 各国の水産振興に対して果たしてきた先導的役割は大きく、今後もさらなる技術上の貢献が期待されている。

研究成果

「水産資源回復のための人工礁に関する FRA/SEAFDEC 協力プログラム」として、人工礁に関するワークショップが 2009 年 8 月、マレーシアおよびタイ王国の両国において、それぞれの政府水産局の協力のもと開催された。この会議は人工礁の設置事例に関する計画、設計・施工、効果などについて、ASEAN の国々と日本が情報を共有することを通じて、相互理解を深めることに主眼を置いて実施されたものである。水産総合研究センターおよび SEAFDEC、マレーシア、タイ王国から集った研究者や技術者、政府関係者によって話題提供がなされ、各講演に対する質疑・討議も活発に行われて、会議は成功裡に終えた。

波及効果



ワークショップの講演内容については、後日取りまとめがなされ、マレーシア水産局より講演集（Proceedings of Workshop on Artificial Reefs for the Enhancement of Fishery Resources）として出版された。人工礁について記された技術資料として、ASEAN をはじめ水産振興に取り組む国々での今後の調査研究や漁場整備に活用される。昨年に引き続き人工礁に関するワークショップが今秋 11 月 11 日、日本（東京）において開催される予定である。人工礁に係る事業および技術の現状と課題、今後の整備や技術開発の推進方向などについて、国内外から関係者が一堂に会して講演や討議が行われることにより、効率的かつ効果的な漁場整備技術の普及や向上が期待される。（養殖工学タスクグループ：大村智宏・高木儀昌、前水産土木工学部長：中山一郎）